

TSU CITY GUIDE 2024-2025

CONTENTS

市長あいさつ	2
津市の位置・アクセス	3
津市の四季	4
津の今、最前線！	
こどもの笑顔が輝くまち	6
毎日を安心して暮らせるまち	8
豊かな暮らしが息づくまち	10
新しい賑わいがあふれるまち	12
津市で一緒に暮らしませんか	14
ツウなところ40選	16
津はええもんがいっぱい！	22
豊かな文化芸術・スポーツ活動を育む	24
Let's『ロケ』&『ロケ地巡り』in 津	26
TSU DATA BOOK	28

笑顔があふれ 幸せに暮らせる県都 津市

三重県の中央部に位置する津市は、伊勢湾から奈良県境までの約711kmの広大な市域を有し、気候は温暖で豊かな自然にあふれています。中部・近畿両圏の結節点として交通アクセスにも恵まれ、さらに津市と中部国際空港を約45分で結ぶ高速船のターミナル「津なぎさまち」もあり、海外へのアクセスも良好です。

歴史をひもときますと、古くは安濃津と呼ばれ港町として繁栄し、今から400年ほど前の中国明代の歴史書には、中国から見た3つの重要な港を意味する「日本三津」の1つとして紹介されています。室町時代から戦国時代にかけては、美杉地域を本拠地とした伊勢国司北畠氏が中世都市を形成し、江戸時代には築城の名手といわれた藤堂高虎公によって大改修された津城を中心とした城下町として、また伊勢神宮への参拝客の宿場町としてもにぎわいました。

今では、三重県の県庁所在地として国・県の行政機関はもとより、企業の本社・支店・営業所などが集中する三重県の経済・産業の中心です。また、国立大学法人三重大学・県立看護大学・市立三重短期大学等の高等教育機関や、県総合文化センター・県立美術館・県総合博物館MieMuといった文化施設も多く、多様な都市機能が集積しているまちでもあります。

一方、観光資源に目を向けますと、国宝建造物を有する高田本山専修寺は近年、映画のロケ地としても注目を集め、美肌の湯として知られる榑原温泉郷、東海地方で初めて「森林セラピー基地」として認定された美杉地域の癒やしの森など多種多様なスポットに観光客が多く訪れます。さらに、うなぎ料理・津ぎょうざ・天むすなど豊かな食文化を持つことも津市の魅力の1つといえます。

2006(平成18)年の大合併により現在の津市が誕生してから18年。合併という大きな構造改革のメリットを最大限に活用し、健全な財政運営のもと、時代の流れに対応できる持続可能なまちづくりを進めてきました。これまで築いてきた成果を土台に、少子化や人口減少をはじめとした課題に向き合い、デジタル化の進展やコロナ禍以後の社会変化に柔軟に対応しながら将来を見据え「選ばれるまち・津市」の実現に向けて、これからも市民の皆さまと共に歩んでまいります。

ますます魅力のあふれるまちへと成長を続ける津市で、皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

津市長 前業泰幸